



## 豆 菓 鼓



グリシン マックス  
学名 / Glycine max,



豆・甲骨文字

世界のマメ科植物は600属13,000種あり、広範に分布しています。

特徴は子実が莢に入っている事と根粒菌で空中窒素を固定する作用があります。根部に多くの根粒があり、この根粒中には根粒菌が存在し、そのバクテリアが空気中の遊離窒素を同化・利用してマメ科植物の栄養源、すなわち、タンパク質に富んだ種実を形成。豆類は莢、未熟豆、完熟豆と成長段階を追って利用されます。

一般には大豆、落花生のような高タンパク質な「脂質の多い豆類」と小豆、インゲン、エンドウ、ソラマメのように糖質を多く含む「デンプン豆類」の二つに大きく分類。

豆腐、味噌、醤油等の調味料から、大豆タンパクを使った代用肉、オイルの原料、医薬品まで様々な活用。

豆の栽培の歴史は5~7千年前とも言われていますが、文献では3千年前位の中国『周王朝』に豆を表す文字が見られます。日本でも稻作を知らずにいた縄文時代の古墳に石器とともに「綠豆」が発見。

大豆の史実としては、中国の戦国時代(BC400~200年)に北方から大豆が入ってきたので、異国産の豆の意味から、戎菽「えびすまめ」と呼ばれ、五穀の主要作物です。

メソポタミア・BC五千年頃では、そのシユメール人はヒヨコマメ（エジプトマメ）・レンズマメ（ヒラマメ）等の豆類を大麦・小麦・キビ等の穀物や野菜と共に食用にしていましたとされます。

エジプトではファラオの時代、西南アジアから伝来したエンドウ・ソラマメ・レンズマメなど多種の豆を利用。レンズマメは先王朝時代・BC四千五百年前頃の墓や、第三王朝・BC二千七百年頃のジヨセル王のピラミッドの地下室から発見。又、セラム三世・BC一千二百年頃の碑文に、ソラマメ一一九九八壺と豆類二三九八壺をナイルの神に捧げた事が記載。

中国黄河流域の文明は、豆類では大豆、穀物では西方から伝來の麦類を中心にアワ・キビなどを基盤として発展しました。荊楚歳時記より「詩経」・BC一~BC六年頃の詩歌を収めた詩集には大豆（当時の呼び名は菽）が黄河の流域で栽培・利用されていた事が記載。

「冬至の日、日の影を量り、赤豆粥を作りて以て疫を禳う」

「大豆には黒、白、黄、褐、青、斑の数色あって、黒いものは烏豆（うず）と名づけて漿に入れ、また食料にし、豆を作り、油を搾り、醬を作るに用いる。黄なるものは豆腐を作り、油を搾り、醬を作るに用いる。」

「本草綱目」（1596）より

「小豆は心の穀なり：」本草綱目には小豆の効能や薬用処方が記載。インドの古代文明は、米及び豆類を基にして発達。

豆の食用の記録は、BC二千年頃に成立したリケーヴェーダ文献等、多数のサンスクリット文献に記述。インド文明のモヘンジヨーダロやハラッバーラの遺跡からエンドウが出土しています。

## 正月に煮豆を食べばまめになる

正月のおせち料理は、伝統的な季節野菜である根菜類や海の幸とともに豆は必須。黒豆、大豆、赤飯、ぜんざいの小豆等も欠かせません。豆とまめ（誠実）をかけたもので、正月に煮豆をして伝来するが、江戸時代まで単に「まめ」といえば大豆を意味し、あるいは身体が丈夫になると語る謡。

## 新春 寿メニュー

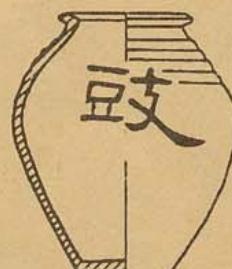
## Dinner

- 豆腐入り河豚白子のフラン トリュフの薫り
- 河豚と芽芽野菜のマリネ 落花生風味
- 河豚の鉄板焼きと納豆のガレット
- 煮込み豆のグラタン風スープ
- 河豚皮と有機野菜のサラダ
- 特選・黒毛和牛フィレステーキ・味噌煮野菜添え
- 新春の焼きめし

## Dessert

- 柑橘のシャーベット & 丹波産黒豆のスフレ・2種盛り
- 珈琲 OR 紅茶

料理長 島田和彦



河南省洛陽女家267号新代墓出土の陶器。  
1陶容器の表面には大豆の加工品「鼓」を朱書。  
1世紀頃の中国人食物史資料として貴重。  
「文物」1996年7月より

「鼓」とは、豆を幽（冷暗所にかこう事）して、これを為る。醤は、豆を以て麹（小麦粉）と合わせてこれを為る。「急就篇」BC100より

「鼓」は嗜なり。五味調和し、これを須ちて成る。乃ち甘嗜なるべし。故に齊人は「鼓」と謂う。声（発声）は嗜の如し。「釈名」BC200より

期間 1月15日（月）~ 2月2日（土）

料金 ¥13,000（税・サ・飲物は別）

# 色で見分ける豆のパワー

## 黄色い豆のパワー

**大豆レシチン・大豆サポニン・植物性タンパク質**

大豆タンパク質は9種の必須アミノ酸をバランスよく含み、消化吸収と栄養価に優れ、「煙の肉」「山のマグロ」と称されきました。この大豆タンパク質には、悪玉コレステロールを低下させる働き、つまり血管をきれいにする働きがある。大豆サポニンは「配糖体」として、私たちの体内ではブドウ糖が中性脂肪に変化するのを抑制したり、カンやカシ等の血管に付着したコレステロールを洗い流し、血管を若々しく保つ働きがあります。また脳の情報伝達物質を作っている栄養素でもあり、大豆を摂ることで記憶力がアップし、ボケ予防にも効果があるとされています。

関西テレビ  
「発掘!あるある大事典」より

**黒い豆のパワー**  
デルフィンファイン

## 黒大豆

漢方の世界では、黒豆（黒大豆）には解毒作用がある為、腎臓の働きを高めるのに効果があるとして古くから薬用に利用。黒豆の色素デルフィンファインは活性酸素を消去する働きがあるのではないかと考えられているからです。黒豆を煎じたものは、咳止め薬として喘息に、又、気管支炎に効果があるとされています。

**赤い豆のパワー**

## 食物繊維

### 小豆・ささげ・赤えんどう・大正金時

不溶性の食物繊維を多く含み、お汁粉1杯分（約10グラム）の小豆の食物繊維は、なんとゴボウ30セント分にも匹敵。不溶性食物繊維は水に溶けず、水分を吸収して膨れるので、腸壁を刺激して腸の運動を活発にし、食べ物の残りカスを速やかに体外に排出。つまり、女性の宿敵便秘解消の強い味方です。

**青い豆のパワー**

## Bカロチノン・ビタミンC・メチオニン

**そら豆・枝豆・グリンピース・さやいんげん・さやえんどう**

Bカロチノン（ビタミンA）とビタミンCに富み、免疫力を強化する働きがあり、多く摂れば相乗効果で抵抗力がつき、風邪など引きにくい身体になります。又、ビールのおつまみに欠かせない枝豆には、アミノ酸の一種、メチオニンを含有し、肝臓の働きを助ける効果があります。ビールに枝豆というのは、味の相性が良いというだけでなく栄養的にも理に適った組み合わせだったのです。

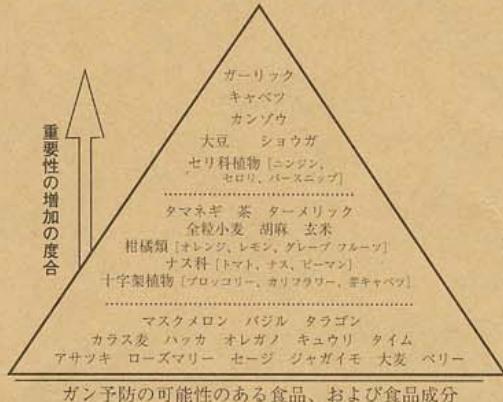
## 今、世界で注目される「ナットウキナーゼ」とは？

（納豆はこれほど効く）医学博士須見洋行著書参考

倉敷芸術科学大学の須見洋行教授は1982年米国シカゴで、心筋梗塞や脳血栓など生命を脅かす疾患の原因となる血栓（血液中にできる血の固まり）を溶かす物質の研究をしていました。納豆のネバネバ、つまり糸と呼ばれる部分に強力な血栓溶解酵素が存在することを見つかりました。その酵素が今、注目を集めている「ナットウキナーゼ」です。納豆は、あつあつのご飯にかけて食べる朝食のイメージが浮かびます。しかし、脳血栓対策の為には、納豆は夕食に摂った方が良いそうです。その理由は、血栓は夜中から朝にかけてできやすくなるので、納豆を食べるなら日曜の夕食が最適。食べ方の注意点として、ナットウキナーゼは熱に弱い為、炊きたてのご飯には混ぜず、蒸らした後、15分経て、70度を越えない温度にして、かけて食べると効果的だそうです。

『ガンを予防するためには、黒大豆や小豆、大豆等の豆類を毎日欠かさず食べること』

1987年世界ガン研究基金発表・ガン予防に有効な15ヶ条より



ガン予防の可能性のある食品、および食品成分

40種近くの食品にガン予防の可能性を示す結果が得られ、ピラミッド型最上段の8種類の食品は特に注目されています。豆類は手間をかけても、ありある栄養の宝庫。豆料理は日常の少しの工夫で手軽に調理でき、日々の食生活が豊かになります。幼い頃、小豆の入ったお手玉で遊んだ事を思い出しました。お手玉は非常食用の為と知り、昔の人の知恵に改めて敬服。

## 豆の諺

麦飯豆羹……………麦飯と豆の羹で粗末な食物の事。人に食事をすすめる時、謙遜している言葉。中国の諺。

大豆は畠の肉……………大豆が優れた植物性タンパク質であるところからこのようにいう。ドイツでいいだした諺。

畑やせたら豆植えろ……マメ科の植物は根に寄生する根粒菌の働きで、空気中のチッソを吸収し養分として植物体の中に蓄えているため、やせた畑でも豆は育つ。米・麦・トウモロコシなど主要作物との混作が行われ、その肥料として利用されている。相手の作物の生育を助ける効果がある。

豆腐も煮ればしまる……困難は人を鍛錬する。

正月に煮豆を食べば、まめになる

黒豆を食べると声がくなる

戸板に豆

エンドウは日陰でもはじける

日光が当たらない日陰でも、熟すればエンドウの豆は自然にはじける。すなわち、時期がくればものごとは自然に達せられるということ。

カッコウが鳴けば種をまけ

北海道ではカッコウが鳴き始める五月下旬となれば晩霜の心配もなくなり、雨が近いともいわれる。タネは小豆のこと。カッコウはタネまき鳥とも呼ばれる。

Peas and Carrots (豆と人参)

グリンピースと人参の茹でたものは英国や米国ではよくステーキのようなメイン料理に付け合せに出される事から「いつでも一緒にいる仲の良い男女（特に幼い子供に）」



